

高等学校国語科教科書 (平成十五年～十六年度) 教材一覧

High School Japanese Textbooks '2003~2004' Teaching Materials' List

久保田 裕子

Yuko KUBOTA

(国語教育講座)

(平成十六年九月十日受理)

はじめにー新学習指導要領の領域構成

現在、新しい学習指導要領 (平成十一年版) の教育課程基準が実施されつつある。周知の通り、学習指導要領は文部科学省が編集発行する、幼稚園から高等学校、及び盲・聾・養護学校のエデュケーションの基準である。

新学習指導要領は、平成十年 (一九九八) 年に幼稚園と小学校、中学校の改訂が、平成十一年 (一九九九) 年に高等学校と盲・聾・養護学校の改訂が告示された。幼稚園では平成十二 (二〇〇〇) 年度、小・中学校では平成十四 (二〇〇二) 年度から全面的に実施され、高等学校では一年遅れて平成十五 (二〇〇三) 年度入学生から段階的に実施され、平成十七年 (二〇〇五) 年度から全ての学年において移行措置が完了する。

『教科書制度の概要』(文部科学省初等中等教育局 平成14・4)によれば、「4. 教科書検定の方法」として、「教科書検定の方法については、臨時教育審議会の答申を踏まえ」た上で教科書は改訂もしくは新編

修される。教科書検定制下の基本過程においては、学習指導要領の改訂に伴い、教科書は出版社から提出された白表紙本について文部科学省の教科書調査官が検定を行い、合格したものが検定済教科書として頒布され、採択の過程を経て使用される。したがって今回の新学習指導要領の実施に伴い、高等学校では「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」「国語表現Ⅰ」「現代文Ⅰ」「現代語」「古典Ⅰ」「古典Ⅱ」「古典講読」から、「国語表現Ⅰ」「国語表現Ⅱ」「国語総合」「現代文」「古典」「古典講読」へと科目区分の名称が変更され、それに伴って各教科書に収録された教材内容も大きく改編された。

今回の改定で国語科は画期的な変貌を遂げたと言ってもよいが、新学習指導要領に見られる国語科という教科の再構築の意味を確認し、その背景にある問題構成について考察する前段階として、教科書教材として採択された作品を確認したいと考えた。筆者は日本近代文学を研究領域とするため、まず自身の研究対象と重なり合う現代文の分野について、「国語総合 (現代文編)」「現代文」それぞれの教科書に収録された筆者名の明

記された作品について、「国語表現」については全目次の一覧表を作成した。

以下に掲げた表においては、各教科書の「教科書名（出版社）」「単元名」「教材名」「筆者名」「編者名」「使用開始年度（平成）」「教科書記号・教科書番号」を挙げた。一覧表に付された表記や記号は各教科書の記載にそのまま従った。

なお本稿の作成に当たっては、財団法人教科書研究センター附属教科書図書館において調査をさせて頂いた。記して感謝申し上げます。

高等学校国語科教科書教材一覧（現代文編）

◎国語総合

教科書名 (出版社)	単元名	教材名	筆者名	編者名	使用開 始年度	教科書記号・ 教科書番号
新編国語総合 (東京書籍)	現代文編 未来をひらく【随想一】 こころの風景【小説一】 考える楽しさ【評論一】 詩の世界【詩】 人間の心理【小説二】 生きるということ【随想二】 青春のうた【短歌・俳句】	それぞれの羅針盤 「常識」の常識 とんかつ 清兵衛と瓢箪 言葉の風景 しゃぼん玉は丸い 道程 二十億光年の孤独 シミ 羅生門 シーン 石の音が聞こえる りんごのほっぺ その子二十【短歌】 夏嵐【俳句】 沖縄の手記から 爆弾のような問い	佐伯一麦 中村桂子 三浦哲郎 志賀直哉 中西進 安野光雅 高村光太郎 谷川俊太郎 石垣りん 芥川龍之介 柳田邦男 加賀美幸子 渡辺美佐子 与謝野晶子・石川啄木・ 若山牧水・北原白秋・ 斎藤茂吉・宮穆二・ 近藤芳美・寺山修司・ 俵万智・河野裕子 正岡子規・高浜虚子・ 山口誓子・飯田蛇笏・ 川端茅舎・中村草田男・ 加藤楸邨・中村汀女・ 種田山頭火・金子兜太 田宮虎彦 鷺田清一	小町谷照彦 ほか	15年度	国総 001

精選国語総合 (東京書籍)		国語総合 現代文編 (東京書籍)
現代文編	一 随想 二 小説① 三 評論① 四 小説② 五 詩歌	現代文編 一 評論① 二 小説① 三 評論② 四 小説②
自己基準と他者基準	心の中の宇宙 かつては、道に迷う自由もあつた 羅生門 海の方の子 水の東西 風景について 津軽 夢十夜 贅のうへ ぼろぼろな駝鳥 私のカメラ 一日の長さ 十五の心―短歌抄 赤い棒―俳句抄 身体の想像力 ものと記号 カプリンスキー氏 美を求める心	歩行と思索 希望としてのクレオール 羅生門 鏡 時間と自由の関係について 山の奥の心 富嶽百景
鈴木孝夫	日野啓三 今福龍太 芥川龍之介 山田詠美 山崎正和 池澤夏樹 太宰治 夏目漱石 三好達治 高村光太郎 茨木のり子 清岡卓行 石川啄木ほか 河東碧梧桐ほか 三浦雅士 池上嘉彦 遠藤周作 小林秀雄	黒井千次 柴田翔 芥川龍之介 村上春樹 内山節 沢田允茂 太宰治
小町谷照彦 ほか		小町谷照彦 ほか
15年度		15年度
国総 002		国総 003

高等学校国語総合 現代文・表現編 (三省堂)			
現代文・表現編	五 詩歌	濃紺 小景異情 汚れつちまつた悲しみに…… 六月 未確認飛行物体 いちばつの花―短歌抄 白牡丹―俳句抄 無数の伝令が走っている 広告の形而上学 黒い雨 私の個人主義	幸田文 室生犀星 中原中也 茨木のり子 入澤康夫 正岡子規ほか 高浜虚子ほか 池内紀 岩井克人 井伏鱒二 夏目漱石
一 随想(一)	六 評論③	七 小説③	八 評論④
二 小説(一)	七 評論④	八 評論④	
三 評論(一)			
四 詩			
五 随想(二)			
六 短歌・俳句			
七 評論(二)			
現実の鏡 古典への途上の近道 羅生門 少女 水の東西 ものごとくは ネットが崩す公私の境 レモン哀歌 およくひと・猫 骨 崖 色と糸と織りと 人形の生死 「逃亡」ともいえる生き方 その子二十一―短歌十五首 いくたびも―俳句十六句 多様な知識の組み合わせを 「からだ」と「こころ」	真実の鏡 古典への途上の近道 羅生門 少女 水の東西 ものごとくは ネットが崩す公私の境 レモン哀歌 およくひと・猫 骨 崖 色と糸と織りと 人形の生死 「逃亡」ともいえる生き方 その子二十一―短歌十五首 いくたびも―俳句十六句 多様な知識の組み合わせを 「からだ」と「こころ」	池田香代子 赤瀬川原平 芥川龍之介 河野多恵子 山崎正和 鈴木孝夫 黒崎政男 高村光太郎 萩原朔太郎 中原中也 石垣りん 志村ふくみ 富岡多恵子 ドナルド・キーン 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか 村上陽一郎 森岡正博	柴田武・ 金谷治 ほか
	15 年度		
	005 国総		

国語総合 (教育出版)	新編国語総合 (三省堂)	
現代文編 随想	現代文・表現編 1 随想 2 小説 3 評論・随想 4 詩 読んで話し合おう 5 評論・随想 6 短歌・俳句 7 小説 8 評論 読んで話し合おう	八 小説(二) 九 評論(三)
季節	もう一つの時間 「じたばた」のものはなんだったのか 羅生門 草之丞の話 コインは円形か ナポレターノ 木 二十億光年の孤独 シシミ サークス ユージンへの旅 水の東西 鳥のいる(異風景) その子二十一短歌十四首 いくたびもー俳句十六句 猿が島 屋根の上のサワン 言葉は色眼鏡である 世界観の変貌 ナガサキの郵便配達	富嶽百景 紫紺染について 余暇について 見る―考える
内山節	星野道夫 工藤直子 芥川龍之介 江國香織 佐藤信夫 塩野七生 高良留美子 谷川俊太郎 石垣りん 中原中也 青海恵子 山崎正和 加藤幸子 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか 太宰治 井伏鱒二 野元菊雄 内山節 ビーター・タウンゼント／ 間庭恭人訳	太宰治 宮沢賢治 内山節 大森荘蔵
加藤周一 ほか	柴田武・ 金谷治 ほか	
15年度	15年度	
008 国総	007 国総	

新国語総合 （教育出版）	
現代文編 随想 言葉とともに	<p> 表現の扉1 手紙を書く 小説一 表現の扉2 本を紹介する 評論一 表現の扉3 絵や写真を文章にする 表現一 表現の扉4 インタビューする 詩 小説二 表現の扉5 資料から読み取る 評論二 表現の扉6 要約文を書く 表現二 短歌・俳句 評論三 表現の扉7 デイベートを楽しむ 小説三 表現の扉8 自分の意見をもつ </p>
言葉友人に持とう 「生命は」	<p> ペルセウスの鏡 Be動詞 羅生門 水の東西 やつぱり 情報時代に必要な文章能力 わたしの夏——一九四五年・広島 調べること・発表すること 乳母車 サークス わたしが一番きれいだったとき ナイン 旅のノートから 好奇心 平明 話すこと・説得すること 折々のうた 作品 自由の制服 クロイン問題と現代の幻想 なめとこ山の熊 ウサギに「生存権」はあるか </p>
寺山修司 吉野弘	<p> 三木卓 マルセ太郎 芥川龍之介 山崎正和 森本哲郎 樺島忠夫 堀場清子 三好達治 中原中也 茨木のり子 井上ひさし 真木悠介 中村雄二郎 辰濃和男 大岡信 鷺田清一 黒崎政男 宮沢賢治 西研 </p>
加藤周一 ほか	
15年度	
国総 009	

国語総合 (大修館書店)	<p>表現の扉1 手紙を書こう 小説(一) 小説は問いかける 表現の扉2 本を紹介しよう 評論(一) 自分で考える、 自分を考える</p> <p>表現の扉3 スピーチをしよう 表現(一) 歴史のなかの私</p> <p>詩 言葉の力</p> <p>表現の扉4 絵や写真を文章に しよう</p> <p>小説(二) 等身大の世界から</p> <p>表現の扉5 インタビューをしよう 評論(二) 日本語と日本文化</p> <p>表現の扉6 資料から読み取ろう 表現(二) 言葉に性別はあるか</p> <p>短歌・俳句 定型の魅力</p> <p>評論(三) 生きることの充実感 を求めて</p> <p>表現の扉7 要約文を書こう 小説(三) 名作への招待 表現の扉8 自分の意見をもとう</p>			
現代文編 一 随想	<p>羅生門 「知る」ということ らしさ 「アイム ソーリー」 調べること・発表すること 道程 塾のうへ 喪失ではなく 情報時代に必要な文章能力 岳物語 ピアス あいまいな日本人? 日本人はアリスの同類だった 男言葉と女言葉 ダイベートを楽しもう 折々のうた 作品 豊かさの出发点 生命と死の歴史から 屋根の上のサワン ウサギに「生存権」はあるか</p>			
池澤夏樹	<p>芥川龍之介 加藤周一 鷺田清一 古屋敬 高村光太郎 三好達治 吉原幸子 樺島忠夫 椎名誠 加藤幸子 加賀野井秀一 高畑勲 永井愛 大岡信 加藤尚武 柳沢桂子 井伏鱒二 西研</p>			
ほか 北原保雄				
15年度				
010 国総				

新編国語総合 (大修館書店)					
現代文編	二 小説(一)	真実の鏡 羅生門	池田香代子 芥川龍之介 村上春樹 内山節	15 年 度	国 総 0 1 1
	三 評論(一)	自然と人間の関係を とおして考える 地球温暖化問題とは何か しろい春 鰯のうへ 一つのメルヘン	小宮山宏 吉原幸子 三好達治 中原中也		
	四 詩・短歌・俳句	短歌 十五首 俳句 十二句 ◇ンデルと力士 街に出るロボット 良識派 虫類図鑑 種をまく	吉田秀和 村上陽一郎 安部公房 辻まこと		
	五 評論(二)	学位を頂きたくないのであります 言葉についての新しい認識 短歌を訳す―言葉の壁を越えて 伊豆の踊り子 セメント樽の中の手紙 「母性」と「父性」の間をゆれる メディアとしての顔	夏目漱石 池上嘉彦 俵万智 川端康成 葉山嘉樹 河合隼雄 原島博		
	六 ささまざまな文章				
現代文編	七 日本語			ほ か	北 原 保 雄
	八 小説(二)				
	九 評論(三)				
	一 伝え合うところ	伝えたいと思うから さびしんぼうだった青春時代 漢字の性格 子供たちの晩餐 記念写真 俺はその夜多くのことを学んだ 心が生まれた惑星	山根基世 大林宣彦 金田一春彦 江國香織 赤川次郎 三谷幸喜 NHK取材班		
4 広がる見方・考え方					

精選国語総合 (明治書院)		日本の渚 〈意見文を書く〉 サッカーと国際協力 〈手紙を書く〉 「手紙」に関する十二条 青春の詩歌 空と雲の詩歌 旅の詩歌 羅生門 夢十夜 マンガ ――線から絵が生まれるとき 水の東西 日本人としての自覚が 国際性を高める 二一世紀を予言しよう ――「私の二一世紀予言集」 を作る 未来の「読書」はどうなるか ――パネル・ディスカッション による話し合い	加藤真 生徒作品 轡田隆史 芥川龍之介 夏目漱石 夏目房之介 山崎正和 河合隼雄	久保田淳・ 中村明・ 中島国彦 ほか	15 年度	国総 012
	現代文編 ① 随想―人生と言葉― ② 小説(1) ③ 評論(1)―文化の形― ④ 詩	待つことの悦び 呼び掛ける言葉 羅生門 神様 水の東西 世界中が「バーガー」 小諸なる古城のほとり 鯰 サーカス	四方田犬彦 前田愛 芥川龍之介 川上弘美 山崎正和 多木浩二 島崎藤村 高村光太郎 中原中也			

新編国語総合 (明治書院)			
現代文編	1 言葉と問い掛け	汲む 津軽 信念	
	2 小説(1)	進化と適応 身体技法	
3 自然と人間	4 詩	髪五尺(短歌十六首)	
		白牡丹(俳句十六句)	
		マルジャーナの知恵 「言語」としての文化	
		茨木のり子 太宰治 武田泰淳 日高敏隆 鷺田清一 正岡子規・与謝野晶子・ 石川啄木・斎藤茂吉・ 若山牧水・宮柊二・ 馬場あき子・寺山修司 高浜虚子・飯田蛇笏・ 水原秋桜子・山口誓子・ 中村草田男・加藤楸邨・ 尾崎放哉・杉田久女 岩井克人 池上嘉彦	
		久保田淳・ 中村明・ 中島国彦 ほか	
	15年度		
	013 国総		

		<p>奈々子に シシミ 鉄塔を登る男 到来する記憶 蠅 羅生門 その子二十(短歌十六首) 谿深し(俳句十六句) 「思われる」と「考える」 時間の不思議</p>	<p>吉野弘 石垣りん 沢木耕太郎 岡真理 横光利一 芥川龍之介 正岡子規・与謝野晶子・ 石川啄木・斎藤茂吉・ 若山牧水・会津八一・ 塚本邦雄・河野裕子 高浜虚子・水原秋桜子・ 山口誓子・中村草田男・ 森澄雄・橋本多佳子・ 細見綾子・種田山頭火 外山滋比古 中村雄二郎</p>	<p>会田貞夫 ほか</p>	<p>15 年度</p>	<p>国 総 014</p>
<p>国語総合 (右文書院)</p>	<p>現代文編</p> <p>5 日常と経験 6 小説(2) 7 短歌と俳句 8 思考と時間</p>	<p>神秘 汝みずからを笑え 羅生門 鹿踊りのはじまり みえないものを大事にする ミロのヴィーナス 千鳥と遊ぶ智恵子 「言語活動教材」 夏の終り「言語活動教材」 「参考」彼岸への祈り 文明の電源 文学のふるさと</p>	<p>竹西寛子 土屋賢二 芥川龍之介 宮沢賢治 片倉もとこ 清岡卓行 高村光太郎 伊藤静雄 中村稔 司馬遼太郎 坂口安吾</p>	<p>ほか</p>	<p>15 年度</p>	<p>国 総 014</p>
	<p>1 未知への探求 2 小説(1) 3 随想・評論(1) 4 詩 5 随想・評論(2)</p>					

国語総合 (筑摩書房)			
現代文編	随想一	短歌十六首	与謝野晶子・若山牧水・ 石川啄木・斎藤茂吉・ 北原白秋・釈迢空・ 会津八一・近藤芳美 馬場あき子
	小説一	俳句十六句	正岡子規・高浜虚子・ 水原秋桜子・山口誓子・ 中村草田男・加藤楸郎・ 中村汀女・飯田龍太
	評論一	「参考」近代の名句 清兵衛と瓢箪 最後の一羽 幽霊の正体 自己基準と他者基準 日本語 国際的日本語のマナー	平井照敏 志賀直哉 池澤夏樹 養老孟司 鈴木孝夫 井上ひさし 岡崎久彦
	詩	「参考」放浪家と言っていた 「参考」冒険」とは コインは円形である	植村公子 植村直己 佐藤信夫
	表紙編 話すこと1 聞くこと・話すことの技術 書くこと3 説明文・論説文		
ほか		大川公一	
		15年度	
015		国総	

	精選国語総合 (筑摩書房)
<p>随想二 記録・手紙 小説二 評論二 短歌・俳句 小説三</p>	<p>現代文編 随想一 小説一 評論一 詩</p>
<p>サーカス わたしが一番きれいだったとき 木 マッチ売りの男 苔紅梅 戦中往復書簡 ブラネタリウム 城の崎にて 「ふと」と「思わず」 桜は何の象徴か ボランティアの「報酬」 恋の歌を読む 短歌 俳句 砲撃のあとで</p>	<p>生命のふしぎ 境目 羅生門 指 たすけあいの論理 異文化としての子ども 二十億光年の孤独 崖 月夜の浜辺 遺伝 演じられた風景 えぞ松の更新 待ち伏せ 棒</p>
<p>中原中也 茨木のり子 田村隆一 大竹伸朗 志村ふくみ 島尾敏三・ミホ 干刈あがた 志賀直哉 多和田葉子 中井久夫 金子郁容 俵万智 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか 三木卓</p>	<p>多田富雄 川上弘美 芥川龍之介 鷺沢萌 梅棹忠夫 本田和子 谷川俊太郎 石垣りん 中原中也 萩原朔太郎 山崎正和 幸田文 ティム・オブライエン／ 村上春樹訳 安部公房</p>
安藤宏 ほか	
15年度	
国総 016	

高等学校国語総合 (旺文社)			
表現	現代文	評論二	評論一
	エッセイ(一) 小説(一) 評論(一) エッセイ(二) 小説(二) 評論(二) 詩	短歌・俳句 小説三 評論三	失われた両腕 脳の中の地図 言語は創造する 短歌 俳句 清貧譚 身体、この遠きもの マルジャーナの知恵
句会を通しての創作と鑑賞	二十四時間の待ち合わせ もうひとつの時間 アイコ十六歳 羅生門 「削る」と「なめる」 宇宙からの使徒 記念写真 ぼくのマンガ人生 休む 他人の夏 一瞬を生きる ピナトウボの失われた味 冬が来た 自然の背後に隠れて居る 汚れつちまつた悲しみに 二十億光年の孤独 津軽 弘川寺 もろともに宇宙の微塵となりて	清岡卓行 澤口俊之 田中克彦 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか 太宰治 鷗田清一 岩井克人	坪内稔典
	山田有策 ほか	15年度	国総 018

高等学校 標準国語総合 (第一学習社)	高等学校国語総合 (第一学習社)
現代文編 随想 小説(一)	現代文編 評論(一) 小説(一) 文章の広場 詩 評論(二) 探究の窓 小説(二) 短歌と俳句 文章の広場 評論(三) 小説(三)
自立と依存 話し上手・聞き上手 最後の一羽	知的創造のヒント 水の東西 羅生門 一瞬を生きる 井伏鱒二と太宰治の往復書簡 贅のうへ 一つのメルヘン 木 I was born ものとことば ネットが崩す公私の境 情報探索の方法と実践 なめとこ山の熊 その子二十 こころの帆 アンネの日記 自分：この不思議な存在 世界中がハンバーガー 草の言葉・魚の言葉 城の崎にて 空き缶
河合隼雄 沢村貞子 池澤夏樹	外山滋比古 山崎正和 芥川龍之介 原田宗典 三好達治 中原中也 田村隆一 吉野弘 鈴木孝夫 黒崎政男 藤田節子 宮沢賢治 アンネ・フランク／ 深町眞理子訳 鷺田清一 多木浩二 真木悠介 志賀直哉 林京子
稲賀敬二・ 竹盛天雄 ほか	稲賀敬二・ 竹盛天雄 ほか
15 年度	15 年度
020 国総	019 国総

高等学校 新編国語総合 (第一学習社)	
現代文編 新しい出会い 小説を読む(一) 文章の広場 詩の楽しみ 生活の中の表現	文章の広場 詩 評論(一) 探究の窓 小説(二) 短歌と俳句 文章の広場 評論(二) 小説(三)
一日ですっかり 変わってしまうこともある 身近な動植物の名を覚えよう 散髪 指 井伏鱒二と太宰治の往復書簡 道程 小景異情 六月 日本語のころ	卒業ホームラン 井伏鱒二と太宰治の往復書簡 冬の奴 湖上 最後の箱 きゅうり コンコルドの誤り 安全は証明できない 情報探索の方法と実践 羅生門 清兵衛と瓢箪 清水へ 手鞠歌 アンネの日記 ものまね上手・ 創造上手の日本技術 練る―身体感覚と言葉 時計
村上春樹 河合雅雄 椎名誠 鷺沢萌 高村光太郎 室生犀星 茨木のり子 金田一春彦	重松清 高村光太郎 中原中也 中野重治 八木幹夫 長谷川眞理子 池内了 藤田節子 芥川龍之介 志賀直哉 アンネ・フランク／ 深町眞理子訳 石井威望 斎藤孝 千刈あがた
稲賀敬二・ 竹盛天雄 ほか	
15 年度	
021 国総	

展開国語総合 (桐原書店)			
随想Ⅰ 知ることと生きること	現代文・表現編	探究の窓 小説を読む(二)	説明文の伝達度 情報探索の方法と実践 羅生門
小説Ⅰ		こころの風景	ブライト
評論Ⅰ 自己と社会		文章の広場	挑戦 父の詫び状 アンネの日記
詩		短歌の世界	大切な言葉 よだかの星
		小説を読む(三)	沈黙の世界
		自己と社会	
随想Ⅱ 共に生きる視点			
小説Ⅱ			
評論Ⅱ 技術と人間			
「情報」の洪水の中で 千年間押しくらまんじゅう し続けた町 羅生門 レバー・ストーン ハヤリとシキタリ ジエンダーの視点から 二十億光年の孤独・ わたし・ 死んだ男の残したものは サーカス 私のカメラ 九月の風 ダブル・ペンデイトともに 町工場の磁場 蘭 ボケットの中 コンコルドの誤り			井上ひさし 藤田節子 芥川龍之介 辻仁成 高橋三千綱 向田邦子 アンネ・フランク／ 深町眞理子訳 宮沢賢治 加藤秀俊
芥川龍之介 干刈あがた 小嶋博巳 伊藤公雄 谷川俊太郎	亀井秀雄・ 中野幸一 ほか		
中原中也 茨木のり子 黒田三郎 福島智 小関智弘 竹西寛子 鷺沢萌 長谷川眞理子	15年度		
	国総 022		

探求国語総合 (桐原書店)	現代文・表現編	なぜ車輪動物がないのか 短歌十二首 俳句十二首 言語にもあったレンドリスト アリューシヤン、老兵の夢と闇	本川達雄 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか 千野栄一 星野道夫	亀井秀雄・ 中野幸一 ほか	15 年度	国総 023
	<p>1 随想Ⅰ 青春と発見</p> <p>2 小説Ⅰ</p> <p>3 評論Ⅰ 科学と文化</p> <p>4 詩</p> <p>5 随想Ⅱ 自己と他者</p> <p>6 小説Ⅱ</p> <p>7 評論Ⅱ 自然と人間</p> <p>8 短歌と俳句</p> <p>9 評論Ⅲ 言語と表現</p>	<p>しずくのなかに 謎の空白時代 羅生門 焚り サイボーグとクロイン人間 速度礼賛から時の成熟へ 高原・岩手山・永訣の朝 雪 崖 この部屋を出てゆく アリューシヤン、老兵の夢と闇 〈顔〉が感じられるとき 形 海の方の子 代謝時間―新しい時間の見方 「共生」とは何か？ 短歌十二首 俳句十二首 言葉の力 言葉は耳で味わうもの</p>	<p>大江健三郎 立花隆 芥川龍之介 辻邦生 山崎正和 黒崎政男 宮沢賢治 三好達治 石垣りん 関根弘 星野道夫 鷺田清一 菊池寛 山田詠美 本川達雄 鬼頭秀一 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか 大岡信 鴨下信一</p>			

◎ 国語表現Ⅰ・Ⅱ

教科書名 (出版社)	単元名	教材名	筆者名	編者名	使用開 始年度	教科書記号・ 教科書番号
国語表現Ⅰ (東京書籍)	目次 1 スピーチ入門 2 記録を活用する 3 インタビューの技術 4 手紙と電話 5 情報を探す 6 報告文と発表の技術 7 紹介・案内の技術 8 意見文を書く 9 古典の表現に学ぶ 10 討論会を開く 11 広告の表現技術に学ぶ 12 高校生からのメッセージ 付録	メモをもとにしたスピーチ 生活に生きる記録の工夫 ●日記と記録 相手の考えを尊重して ●ツチノコを探し続けて ●インタビューのおもしろさ 相手に配慮した表現 ●手紙について 図書館の活用 レポートとプレゼンテーション ●優れたレポート 学校紹介のパンフレットを作る マップ法と対話法 ●違う意見がよい 現代に生きる古典の表現 ●『枕草子』に参加してみる 主張の観点と根拠を考える 広告とレトリック 原稿をもとにしたスピーチ ●野菜が育てるぼくたち マニアル編 常用漢字一覧表 パソコンの文章の作り方 原稿用紙の書き方 手話と点字	梅棹忠夫 高橋直子 高村薫 荻谷剛彦 森毅 渡辺実	高木まさき ほか	15 年度	国Ⅰ 001

国語表現Ⅱ （東京書籍）		目次	
プロローグ―表現する技術を考える		チエルのブイリ 新旧の村	高木まさき ほか
1 調べる 情報収集の技術	考える	本に当たる―情報探しの方法― 医療という現場	
2 取材する	―聞き取り取材による 情報収集	立花隆 増田れい子	16 年 度
3 記録する―情報の保存と記録	情報収集	長谷川真理子	
4 説明する―本のおもしろさを紹介する	紹介する	清水義範	国 Ⅱ 0 0 1
5 報告する	―情報を整理し文章に まとめる	二木雄策	
6 発表する―情報を整理し 口頭で伝える	まとめる	岩宮眞一郎	
7 討論する	―ダイベートマッチで論理を 鍛える	中島義道	
8 意見文を書く―構成を考える	構成を考える	小此木啓吾	
10 小論文を書く―「考え方」を 考える	「考え方」を 考える	中村雄二郎	
11 伝える―思いを伝える技法	伝える技法	佐藤正午	
エピソード―古典と現代の かわり	かわり	小町谷照彦	
附録		「石棺」に芽吹く生命 小論文を書く手順 常用漢字一覧 小論文を書く手順	本橋成一

目次

表現の扉をひらく
一 「わたし」のことを語る

二 新聞に投書してみよう
自分の意見を表現するⅠ

三 クラス企画 ミニ講演会

四 この本読んでみて!
―本を紹介しよう

五 聞き書きの世界
―身近な人の話を聞こう

六 情報手帳で伝えよう、

- 1 「わたし」のことを話してみよう
- 2 「わたし」のことを書いてみよう
- 3 「自己紹介集」を作ってみよう
- 4 「自己紹介集」をみんなで見よう
- 自己紹介文「わたしが好きなもの
―高校野球―

- 1 投書を読む
- 2 投書を書く
- 3 投書を読み合う
- 「異国での喜び 手書きの便り」

- 企画手順 1
- 企画手順 2
- 企画手順 3

- ミニ講演会当日
- 講演依頼の手紙例
- 日程確認のはがき例
- みんなで紹介文を書いてみよう

- みんなの書いた紹介文を読んでみよう
- 紹介文『家なき娘』
―ペリーヌの何が人生を切り開いたか―

- 1 周囲の人物をふり返ってみよう
- 2 会って話を聞いてみよう
- 3 聞いたことをまとめてみよう
- 4 「聞き書き集」を作る
- 聞き書き「私の就職観を変えた島崎さん」
- 1 ブレーンストーミング

(新聞投書より)

細川英雄
ほか

15
年度

国Ⅰ
002

学校生活の知恵 — 情報の収集・整理と伝達	七 文学の表現 — 表現を豊かにする	八 「わたし」にとつての国際化 — 自分の意見を表現するⅡ	表現の扉をひらくために — 「考えること」と 「表現すること」と 表現の窓	役に立つページ
2 編集会議	3 取材	4 執筆	● 記事「購買利用ガイド」	
1 古典の表現 蟻と蟬のこと 伊曾保物語より	2 文学の表現 ありときりぎりす	1 「考え」を出す	2 「考え」を整理する	
3 整理した「考え」を口頭発表する	4 「考え」を文章化する	● 意見文「わたしにとつての国際化 — 「コミュニケーション」とはの 問題から」	● 意見文「わたしにとつての国際化 — 自分の意見を持つということ」	
1 デイベートを楽しもう	2 現代の「敬語」と「敬意表現」 — 相手や状況に配慮して 表現すること	3 本を作る	4 ことばを見つめる — アンケート調査からレポートへ	● レポート「若い人の会話に見られる 特徴的な言い方についての 一考察」
5 意見文を書く — 「書く」ための方法と 「考える」手順	① 送り仮名の付け方			

佐野洋子

佐野洋子

	国語表現Ⅱ (三省堂)
付録 見返し	目次 ○考えていることを伝え合う 一 身近なテーマを書く 表現の翼1 表現の翼2 二 「考えていること」を文章にする 表現の翼3 取材から発表へ
② 作文にみる誤りやすい例・ 避けたい例 ③ 区切り符号 ④ 修辞法 ⑤ 文章構成の種類 常用漢字表・付表 原稿用紙の使い方 時候の挨拶 ディベート論題の実例 表現のためのキーワード索引	1 テーマ「私が熱心に取り組んでいるこ と」 2 構想メモを作る 3 構想を考える 4 文章にまとめる 5 アドバイスを受け、推敲する 悪文治療法 表現の責任―事実と意見 1 考えていることをふり返ってみよう 2 この授業では何をするのか 3 テーマの決定と「動機メモ」の作成 4 インタビューとその報告 5 下書きをめぐる話し合い 6 文章の完成と提出 伝え合う思考と表現のために 1 テーマを決める 2 取材計画を立てる 3 取材をしてメモを取る 4 考えをまとめる 5 発表する
	細川英雄 ほか
16 年度	
国Ⅱ 002	

国語表現Ⅰ (教育出版)	目次 この教科書を使用するにあたって 表現、このスリルにみちた行為 1 ことばに変える	表現の翼4 表現の翼5 四 体験から物語へ―「創作」 表現の翼6 五 「自分」のことを伝える ―「面接」 表現の翼7 表現の翼8 ○「私」にしか表現できないこと ―考えていることを 伝え合うために 付録 見返し
	ステップ1 速く正確に書き写す ステップ2 メモを取る・メモで伝える	プレゼンテーションの工夫 ―わかりやすい口頭発表 情報の読み方・扱い方 1 物語の題材を決める 2 構想を練る 3 執筆する 4 物語を鑑賞する わかりやすい表現 ―「子どもの権利条約」 1 もし自分が面接担当者だったら、 何を質問するだろうか 2 質問事項に対する 「自分」の回答を考えておこう 3 模擬面接をしてみよう 4 評価のポイントを検討してみよう ことば遣い・敬語 電話のかけ方、手紙・はがきの形式 常用漢字表・付表 履歴書を書く 本を作る 原稿用紙の使い方 時候の挨拶 覚えておきたい記号の使い方 表現のためのキーワード索引
ほか 長沼行太郎		
15年度		
003 国Ⅰ		

2	声の表現	ステップ3 絵をことばにする ◎ズームアップ1 筆写の天才 ステップ1 声を出そう(発声・発音) ステップ2 文字を声に変える ステップ3 スピーチの方法 ステップ4 声の発表会 「私のおススメBOOK」 ◎ズームアップ2 他者に劈かれた声 ステップ1 コラムを読む ★コラムサンプル集 ステップ2 コラムを書く ステップ3 本を作る ◎ズームアップ3 読者をひきつける書き方 ①主題の立て方 ②取材の仕方 ③構成を工夫する ④悪文チェック(推敲) ⑤要約の方法 ステップ1 ことば遊び ステップ2 川柳を作ってみよう ステップ3 広告コピーを作ってみよう ◎ズームアップ4 ことばのカレンダー ↳ 季語を題材にして ステップ1 ことばの性質を知る ステップ2 単語の由来を探る ステップ3 関係にはたらきかけることば ◎ズームアップ5 言葉の持つ力 ステップ1 小論文を書くために ステップ2 構想ノートの作り方 ステップ3 小論文生徒作品例と相互批評 ステップ4 レポートを書く	竹内敏晴
3	コラムを書く、本を作る	◎ズームアップ1 文章表現の基本	三浦綾子
4	ことば遊びと創作		
5	ことばと人間		
6	小論文・レポートを書く		

7 会話・会議・発表	◎ズームアップ6 小論文テーマ例一覧 ステップ1 会話の目的と機能 ステップ2 意思決定・合意形成のための会議 ステップ3 グループ・プレゼンテーションに挑戦しよう	
● ツールボックス2 文章サンプル集	◎ズームアップ7 多数決と全員一致 ①言葉―自己表現の強い武器 ②悪口雑言戯論―ある「助六」論 ③「進歩」の代償 ④自転車練習 ⑤いつまでもガキの感性をもつて ステップ1 年譜を作ろう ステップ2 材料を集めよう ステップ3 自分史を書こう	高樹のぶ子 井上ひさし 石弘之 さくらももこ ビートたけし
8 自己との対話	◎ズームアップ8 『十七歳』ブログより ステップ1 場面に応じたことば 〈手紙〉 ステップ2 社会とつながることば 〈面接〉 ステップ3 発信することば〈投書〉 ◎ズームアップ9 市子ちゃんの手紙 ステップ1 情報を集める ステップ2 情報をまとめる ステップ3 情報を発信する	井上路望
9 世界との対話	◎ズームアップ10 本とコンピュータ ①生活の中の表現 一 横書きの通信文の書き方 二 洋封筒（横書き）の書き方 三 面接 四 まちがいやすい敬語の例 五 電話のかけ方	内海隆一郎
10 情報の海を航海する 〈メディアのリテラシー〉	● ツールボックス3 コミュニケーションのための基礎知識	
② 目的に合わせたさまざまな話し合い		

<p>国語表現Ⅱ (教育出版)</p>	
<p>目次</p> <p>表現、もっと遠くまで この教科書を使用するに あたって</p> <p>ステージA</p> <p>①小論文入門 ―「読む」から「書く」へ</p>	<p>■漢字豆知識</p>
<p>③ 非言語コミュニケーション</p> <p>④ 知っておきたい日本語の知識</p> <p>● 日本語の表記</p> <p>―漢字仮名交じり文</p> <p>● 日本語の語い</p> <p>―和語・漢語・外来語</p> <p>● 日本語の構文</p> <p>―的確な表現</p> <p>● 魅力ある文章</p> <p>―レトリックの工夫</p> <p>① 漢字とは</p> <p>② 偏旁冠脚</p> <p>③ 六書 その一(象形・指事・会意)</p> <p>④ 六書 その二(形声・転注・仮借)</p> <p>⑤ 漢字の読み方</p> <p>⑥ 熟語の読み方</p> <p>⑦ 熟字訓</p> <p>⑧ 同音異義語</p> <p>⑨ 同訓異字語</p> <p>⑩ 四字熟語</p>	<p>① つなげることば1―接続表現</p> <p>② つなげることば2―指示表現</p> <p>③ 紙上ディベート</p> <p>④ 文章の「型」―構成の方法</p> <p>⑤ 構成ノート</p> <p>⑥ 要約の方法</p> <p>⑦ 文章のリフォーム―推敲</p>
<p>長沼行太郎 ほか</p>	
<p>16 年度</p>	
<p>国Ⅱ 003</p>	

②話すこと・聞くこと入門	③メディア入門	④私たちの句集作り	ステージB	⑤小論文の技術	⑧発展トレーニング 「安楽」への全体主義	藤田省三
①発音の基本	②音読・朗読の方法	③スピーチの方法	④聞くこと入門	⑤インタビューの方法	①私たちとメディア	②私のメディア生活史
①俳句を作ろう	②句集を作ろう	ツールボックスA 文章サンプル集 一、考えるために書く	二、聴くという行為	三、「人間と動物」という二分法との 訣別	四、「家族の世紀」を越えて	五、地球環境への処方
六、地下足袋	七、インターネット的―孤独と孤独の つながり	①意見を論理的に述べる	②テーマ型小論文の実際 ―新聞について	③課題文を読んで書く	④課題文型小論文の実際 エネルギー危機は起こらない	⑤発展トレーニング かんじんなことは、 目に見えない？
⑥データを読む	⑦データ型小論文の実際	⑧発展トレーニング	⑤発展トレーニング	かんじんなことは、 目に見えない？	⑥データを読む	⑦データ型小論文の実際
⑧発展トレーニング	⑤発展トレーニング	⑥データを読む	⑦データ型小論文の実際	⑧発展トレーニング		
藤田省三						
市川伸一	鷺田清一	松沢哲郎	落合恵美子	松井孝典	小泉和子	糸井重里

⑥話し合いの技術	⑧私のモノ語り	⑦メディアのリテラシー	⑨論文作成法	⑩プレゼンテーションの方法	⑪表現技術のアンサンプル
①目的に合わせた話し合い ②合意形成のための会議 ③ダイベートの方法1 ④ダイベートの方法2 ①広告というメディアを読む ②メディアのリテラシー ①モノ語りとはどんなものか ②私のモノ語りを書く ツールボックスB 言葉の背景集 一、説得のための五つの論法 二、ダイベートと「テレビ政治」 三、多数決と全員一致 四、目的に合わせた話し合いの形態 五、本とコンピュータ 六、小論文テーマ例一覧	①論文作成の準備 ②論文作成の実際 ——コンピュータの過去・現在・未来 ③論文の仕上げ——引用と執筆 ①プレゼンテーション入門 ②プレゼンテーションの実際 ③プレゼンテーションの技術 ①イベントの企画から実行まで ②表現技術のアンサンプル ツールボックスC ことばの作法集 一、敬語と待遇表現 二、電話のかけ方（インタビューの依頼）	①論文作成の準備 ②論文作成の実際 ——コンピュータの過去・現在・未来 ③論文の仕上げ——引用と執筆 ①プレゼンテーション入門 ②プレゼンテーションの実際 ③プレゼンテーションの技術 ①イベントの企画から実行まで ②表現技術のアンサンプル ツールボックスC ことばの作法集 一、敬語と待遇表現 二、電話のかけ方（インタビューの依頼）	①論文作成の準備 ②論文作成の実際 ——コンピュータの過去・現在・未来 ③論文の仕上げ——引用と執筆 ①プレゼンテーション入門 ②プレゼンテーションの実際 ③プレゼンテーションの技術 ①イベントの企画から実行まで ②表現技術のアンサンプル ツールボックスC ことばの作法集 一、敬語と待遇表現 二、電話のかけ方（インタビューの依頼）	①論文作成の準備 ②論文作成の実際 ——コンピュータの過去・現在・未来 ③論文の仕上げ——引用と執筆 ①プレゼンテーション入門 ②プレゼンテーションの実際 ③プレゼンテーションの技術 ①イベントの企画から実行まで ②表現技術のアンサンプル ツールボックスC ことばの作法集 一、敬語と待遇表現 二、電話のかけ方（インタビューの依頼）	①論文作成の準備 ②論文作成の実際 ——コンピュータの過去・現在・未来 ③論文の仕上げ——引用と執筆 ①プレゼンテーション入門 ②プレゼンテーションの実際 ③プレゼンテーションの技術 ①イベントの企画から実行まで ②表現技術のアンサンプル ツールボックスC ことばの作法集 一、敬語と待遇表現 二、電話のかけ方（インタビューの依頼）

新編国語表現Ⅰ (明治書院)	目次	三、通信文の書き方 四、エントリシートと面接 五、面接の形式と過程 六、「私の作品集」を作る	斎藤茂太 響田隆史	中村明 ほか	15 年度	国Ⅰ 004
	<p>1 表現を考える ―話すことと書くこと―</p> <p>2 聞き手を引き付ける ―自己紹介とスピーチ―</p> <p>3 心を伝え、事実を伝え ―手紙・案内・連絡―</p> <p>4 情報を生かして ―記録・報告・発表―</p> <p>5 論理で説得する ―意見文を書く―</p> <p>6 自分の考えを持つて ―話し合いからディベートへ―</p> <p>7 日本語を豊かに ―語彙と表現の移り変わり―</p> <p>付録</p>	<p>会話が作る人間関係</p> <p>「書く」とは「考える」こと</p> <p>I 自己紹介をしよう</p> <p>II スピーチをしよう</p> <p>言葉の学習1 表現を豊かに</p> <p>I 手紙</p> <p>II 案内と通知</p> <p>III 連絡</p> <p>言葉の学習2 語彙を増やす</p> <p>I 私たちと情報</p> <p>II 情報を組み立てる</p> <p>III 記録・報告をまとめる</p> <p>IV 口頭による発表の方法</p> <p>言葉の学習3 漢語の語彙を増やす</p> <p>I 論理的な文章とは</p> <p>II 意見文を書く</p> <p>言葉の学習4</p> <p>言葉のおしゃれ</p> <p>I 考えを明確にして議論する</p> <p>言葉の学習5</p> <p>語彙の量と表現効果</p> <p>I 日本語の語彙と変遷</p> <p>常用漢字一覧表</p> <p>常用漢字表 付表</p>				

精選国語表現Ⅱ (明治書院)			
目次		人名用漢字別表 原稿用紙の使い方	
1	表現を考える	○×式解答法 自分で考える技術 言葉がない	竹西寛子 鷺田小弥太 荒川洋治
2	発想を豊かに、的確に	I 発想を豊かに II 発想を的確に 敬意的表現1 身近な敬意表現 I 論証とはどういうことか II 確実な論証を組み立てる	
3	論証を組み立てる	敬意的表現2 身近な尊敬表現 I 分かりやすい構成とは II 文章の設計図を書く 敬意的表現3 身近な謙譲表現	
4	文章の設計図を造る	I 論理的な文章を書くための文体 II 論理的な文章を書くための修辞 III 文章の分かりやすさ IV 推敲の要点 敬意的表現4 手紙の敬意表現	
5	表現を工夫する	I 論理的な文章を点検する II 書き上げた文章を点検する III 口頭での効果的な発表に取り組む IV 記録・報告をまとめる 敬意的表現5 ビジネスの敬意表現	
6	意見を効果的に伝える	I 言葉のおしゃれ 現	
7	言葉のおしゃれ ——古語から現代語まで—— 付録	常用漢字一覧表 常用漢字表 付表 人名用漢字別表	
		中村明 ほか	
		16 年 度	
		国Ⅱ 004	

高等学校 国語表現Ⅰ (旺文社)		目次
一章	日本語を学ぶ	1 世界の中の日本語 2 日本語を学ぶ
二章	話すことと聞くこと	1 話すことと聞くこと 2 話すこと 3 話す時に注意すべきこと 4 聞くこと 5 目的や場面に応じた話し方
三章	要約文を造る	1 要約文と新聞の記事 2 要約文の実際
四章	文章の構成	1 文章を書く手順 2 文章構成の実際 3 文章構成の要点 4 長すぎる文
五章	文の整え方	1 主語・述語の関係 2 修飾・被修飾の関係 3 助詞・助動詞の使い方 4 推敲の目的
六章	推敲	1 推敲の実際 2 推敲の種類
七章	手紙	1 手紙の種類 2 手紙の文章と形式 3 手紙の用語とその使い方 4 型を決めて書く
八章	記録・報告	1 記録・報告の役割 2 情報化の時代 3 情報の収集 4 情報の整理 5 情報の伝え方
九章	説明文	1 説明文の特徴 2 説明文のポイント

小松
寿雄
ほか15
年度国Ⅰ
005

高等学校 国語表現Ⅱ (旺文社)			
目次		十章 論説文 十一章 ささまざまな文章 コラム 付録	
一章 日本語に即した表現 二章 書くこと 三章 推敲		3 絵や表の利用 1 論説文の魅力 2 論旨の展開と構成 1 心を伝える 2 体験を伝える 3 感覚を表現する 1 一分間スピーチ 2 段落を考えて書く 3 日本語の性質① 4 推敲の要領 5 手紙の用語と敬語 6 日本語の性質② 1 表記の手引き 2 常用漢字一覧	
1 文の成分 2 読点の打ち方 3 段落 4 文章の構成 5 語とその使い方 (コラム1) 文の成分の関係 1 推敲の基本(読む人への配慮) 2 推敲の要領(その一 表記の注意点) 3 推敲の要領(その二 用語の注意点) 4 推敲の要領(その三 文の注意点) 5 推敲の要領(その四 文章全体の注意点) (コラム2) 推敲の要領			
小松寿雄 ほか			
16 年度			
国Ⅱ 005			

四章 話すこと	1 話すことの役割
	2 声の出し方・間（ポーズ）の置き方
	3 効果的に話す
五章 聞くこと	1 聞くことの大切さ
	2 相づちの効果
	3 話し手の意図と聞き方
	4 聞き誤り
六章 敬語	1 敬語の種類
	2 敬語の作り方
	3 こういう場合、敬語でどう言うか
	4 敬語の誤用
七章 要約する	1 要約の意義
	2 題目とキーワード
	3 要約する
	4 題目をつける
八章 情報の収集と発信	1 情報の働き
	2 情報の収集
	3 情報の整理と発信
九章 通信文	1 手紙文の特色
	2 手紙の型
	3 手紙の慣用語句
	4 実用的な手紙と文書
	5 電子メールの利用
十章 論理を立てて書く	（コラム3）電子メールの注意点
	1 論説文に学ぶ（その一）
	2 論説文に学ぶ（その二）
十一章 作ってみよう	1 自己表現
―自己の表現―	2 短歌
	3 俳句
	4 詩
付録	常用漢字一覧

高等学校 国語表現Ⅰ (第一学習社)		目次	
表現の楽しみ		逆物語を作ろう 日本一短い手紙を書こう 絵の情景を詩や文章に表そう 歌詞のイメージを文章に表そう 自己表現 文章の書き方 わかりやすい表現 表現の工夫 参考 推敲のしかた 言葉のキャッチボール 参考 スピーチのしかた	
表現の基礎		①理想的な日本語生活を―理と情― ②漢字と日本文化 手紙の心 手紙を書く 参考 手紙の形式 プレゼンテーションの必要性 紹介文・宣伝文を書く 参考 電話のマナー ③敬語の分類 ②二つの言葉が一緒になって 記録文 アカテガニの大行進 聞き書きを書く 看護婦、それはやりがいのある仕事 レポートを書く 私たちの学校における読書の 実態 参考 情報の収集と整理 ⑤方言と共通語	
言葉の豊かに		加藤秀俊 斎藤美津子 藤原与一 大野晋 外山滋比古 山口弘明 大石初太郎 池上彰 畑正憲 生徒作品 生徒作品	
表現の実践(二)―記録・報告―		江端義夫	
言葉の豊かに		15 年度	
言葉の豊かに		国Ⅰ 006	

	高等学校 国語表現Ⅱ （第一学習社）
表現の実践(三)―意見・主張― 表現の探究 付録	目次 表現への誘い 表現の実践(一) ―意見・主張―
⑥ 外来語と私たちの生活 意見文を書く 環境に優しい良い品を選ぶ 時間の見方変えるとき デイベートをする 小・中学校の給食は廃止するべき である 参考 話し合いのしかた 日本語の特徴 トカ弁―婉曲表現の現在 古語雑談―「やさし」の語史 参考 さまざまな文体 手紙のあいさつの例 誤りやすい敬語法 原稿用紙の使い方	さく―創造を支えるもの 書き言葉について 課題作文を書く 課題 私から見た「私」 小論文を書く 課題1 読書の意義について 課題2 日本の教育のあり方について 課題3 少子化の原因と解決策につ いて 参考 要約のしかた 意見を発表する カモン農村 参考 研究発表のしかた 話し合いをする 高校生活をどう過ごすか
生徒作品 本川達雄 俵万智 佐竹昭広	江藤文夫 柳沼重剛 大久保実
江 端 義 夫 ほ か	
16 年 度	
国 Ⅱ 0 0 6	

国語表現Ⅰ (京都書房)			
第Ⅰ章 言葉・表現をひらく	目次	表現の実践(二) ―実用の文章―	
	付録		
(一)書いてみよう―	手紙文 心に響く手紙 表現の方法 手紙の書き方と形式 記録文 黄金発見 紹介文 国立民族学博物館の紹介 表現の方法 紹介文・宣伝文の書き方 報告文 美林への旅 表現の方法 報告文の書き方 参考 情報の収集と整理 日本語の理解 言葉と文化 国語の時間 古代人と会話ができるか 表現の研究 異文化の根っこ 外部化された料理 「わかった!」ということ コップの中の論戦 デューク 皐月 原稿用紙の使い方 誤りやすい表現 誤りやすい敬語法 手紙のあいさつの例	中川越 大貫良夫 井原俊一 鈴木孝夫 竹西寛子 大野晋 松本仁一 鷺田清一 長尾真 清水義範 江國香織 伊集院静	
ほかに 佐竹秀雄・ 中西一弘・ 樺島忠夫・	15年度		
	007 国Ⅰ		

―表現への招待	第Ⅱ章 書く技術を学ぶ ―表現の基礎	―一言・一句があれば表現になる 「コラム1」言葉であそぼう (二)話してみよう ―こうすればわかりやすく話せる 「話す聞く1」自己紹介をする	(一)記録の文章 1 十六歳のオリザ、冒険をし るす本 2 富士日記 3 チンパンジーの石器使用 ◎学習の課題 「考えてみよう・書いてみよう」	「書く1」「悪文」を書かないため に (二)説明の文章 1 ほんとうの真つ平ら 2 最も新しい昆虫 3 江戸の銭湯 ◎学習の課題 「考えてみよう・書いてみよう」	表現演習1 「コラム2」読書の記録 (一)報告・紹介の文章 1 一コ上 2 なぜ化野の念仏寺には 石仏が多いのか 3 タコ焼き「ふる里」 ◎学習の課題 「考えてみよう・書いてみよう」	第Ⅲ章 伝え合う ―コミュニケーション
			平田オリザ	小関智弘	文化庁	
			武田百合子	五十嵐謙吉	山本鉦太郎	
			松沢哲郎	石川英輔	生徒作品	

第IV章 意見をもって述べる
―自己の確立

第V章 日本語を考える
―言葉・表現の歴史

「話す聞く2」

発表する

―プレゼンテーション

(二)伝達の文章

報道 テレビ

1 「NHKニュース」

女子マラソン金メダル

新聞記事

2 「讀賣新聞」

女子マラソン金メダル

手紙 案内

3 「合唱部創部30周年

記念会の案内」

近況報告4

「芭蕉の手紙」

連絡 揭示文

5 「臨時ホームルームの

お知らせ」

◎学習の課題

「考えてみよう・

書いてみよう」

「話す聞く3」インタビューをす

る

表現演習2

(一)意見の述べ方

―説得力のある談話・文章

◎学習の課題

「考えてみよう・

書いてみよう」

「話す聞く4」討論する

表現演習3

(二)言葉の歴史・文章の変遷

―類義語と語種

「参考」古典の文章

古文

<p>国語表現Ⅱ (京都書房)</p>	
<p>付録</p>	<p>目次</p> <p>第Ⅰ章 表現の基礎 ―言葉・表現をひろげる</p> <p>第Ⅱ章 文章を読み取る ―要約・要旨</p>
<p>―比べてみよう 『枕草子』 『今昔物語集』</p> <p>◎学習の課題「考えてみよう」 「書く2」正しい表現のために (二)国語表現の特色と異文化 謙遜表現</p> <p>◎学習の課題「考えてみよう」</p> <p>■文章を書く手順 ■書くこと(題材)を見つける ■ブレン・ストーミング ■文章の書き方の基本 ■現代仮名遣いの書き方 ■送り仮名の付け方 ■推敲のチェックリスト ■「話す聞く」の実際</p>	<p>(一)言葉・表現への関心 固有名詞の“暴力” 《参考》言葉の意味と語感</p> <p>(二)考えるということ ―意見を持つには 「コラム1」読書の記録</p> <p>(二)文章の構成 ―よい表現のパターン</p> <p>◎学習の課題「考えてみよう」 「書く1」「悪文」を書かないために</p> <p>(二)要約の方法 ◎学習の課題 「考えてみよう」</p>
<p>細川英雄</p>	<p>高田宏</p>
<p>樺島忠夫・佐竹秀雄ほか</p>	
<p>16年度</p>	
<p>国Ⅱ 007</p>	

第Ⅲ章 意見を述べる

―意見・小論文

書いてみよう」

(三) データを読み取る

◎学習の課題

「考えてみよう・
書いてみよう」

表現演習1

「コラム2」インターネットの
利用の仕方

(一) 意見文とは

(1) 意見文の構成

(2) 意見文の表現

◎学習の課題

「考えてみよう・
書いてみよう」

(二) どのようにして意見を持つか

(1) 主題作り

(2) 主題分析

◎学習の課題

「考えてみよう・
書いてみよう」

表現演習2

「書く2」小論文を書くときの
注意点

「コラム3」ディベートを
してみよう

(一) 伝え合う―報告・紹介

報告 1クモの糸は紫外線に
強い

2あこがれの職業

《参考》見学に対するお礼の手紙

紹介 3応援用のメガホン

「書く3」報告・紹介する

◎学習の課題

「考えてみよう・
書いてみよう」

大崎茂芳
生徒作品

■付録	
■文章を書く手順 ■推敲のチェックリスト ■敬語を正しく使う ■プレゼンテーション・面接 ■使い分けよう伝達ツール ■表現用語解説一覧	(二) 想いを述べる―随想から創作へ 書いてみよう」 1 徒然草 第百八十五段 2 徒然草 第五十一段 3 四角い匂い 4 浅草の家 5 夢のごとく ◎ 学習の課題 「考えてみよう・ 書いてみよう」 「コラム4」インタビューをする 表現演習3
	向田邦子 沢村貞子 林望

◎ 現代文

教科書名 (出版社)	単元名	教材名	筆者名	編者名	使用開始年度	教科書記号・教科書番号
新編現代文 (東京書籍)	目次 I 部 1 春を旅する 随想 2 家族のかたち 小説一 3 考えを深める 評論一 4 命をうたう 詩歌 II 部 1 想像する楽しさ 随想	さくらさくらさくら 旅の心得 物と心 みどりのゆび 「ふしぎ」ということ 安心について サークス I was born 鹿 牡丹花【短歌】 山椒魚 からだの情景 情報は整理するな こころ アフリカという毒 二度目の宇宙旅行から帰って 案内・紹介の文章 甲斐駒ヶ岳 契約の文章 報道の文章 虹が水を飲みに来る なまけものコンプレックス	俵万智 高田宏 小川国夫 吉本ばなな 河合隼雄 廣淵升彦 中原中也 吉野弘 村野四郎 正岡子規・長塚節・ 島木赤彦・木下利玄・ 会津八一・釈迺空・ 塚本邦雄・馬場あき子・ 佐佐木幸綱 井伏鱒二 如月小春 手塚眞 夏目漱石 松田素二 毛利衛 多田智満子 別役実	小町谷照彦 ほか	16年度	現文 001

精選現代文 (東京書籍)	目次 I 部	2 自己と他者 小説一	公然の秘密 富嶽百景 人間の言語 自然との共存 竹 永訣の朝 踊り子 春雷【俳句】	安部公房 太宰治 黒田龍之助 星野芳郎 萩原朔太郎 宮澤賢治 ジャン・コクトー／ 堀口大学訳 河東碧梧桐・村上鬼城・ 尾崎放哉・杉田久女・ 日野草城・水原秋桜子・ 石田波郷・森澄雄・ 細見綾子 中村雄二郎 柳澤桂子 森鷗外 山崎正和 小浜逸郎	小町谷照彦 ほか	16 年度	現文 002
	一 随想	3 文化を支えるもの 評論一	人間の言語				
	二 小説①	4 真実とうた 詩歌	自然との共存 竹 永訣の朝 踊り子				
	三 評論①	5 思考を広げる 評論二	春雷【俳句】				
	四 詩歌「詩を書く」	6 心を動かす言葉 小説二	「おもしろい」と「分かる」 病と科学 最後の一句 国際化の流れの中で 幸福について				
	五 評論②	7 明日への思索 評論三					

現代文 1 (東京書籍)			
目次		II 部	
二 小説①		一 評論①	ハイテク化と人間のゆくえ 山月記 海と鰻 平家物語 「である」と「する」のこと こと
一 評論①	花散る夢 モロッコで考えたこと 山月記	二 小説①	①料理の手引き 半熟玉子 ②旅行案内 バリはこうなっている ③統計を読む 江戸時代人の寿命 ④法律の条文について 法と言葉
		三 詩歌	解釈 言語と記号 檸檬 赤い繭 地球へのピクニック 鶏 小諸なる古城のほとり 春風やー俳句抄 「生きる」ということ 藤野先生 光は水のように
		四 評論②	現代の個人主義 人間の自由 舞姫 日本文化の雑種性
		五 小説②	養老孟司 中島敦 小川国夫 小林秀雄 丸山真男 夏目漱石 辻嘉一 鬼頭宏 波多野完治
		六 評論③	外山滋比古 丸山圭三郎 梶井基次郎 安部公房 谷川俊太郎 萩原朔太郎 島崎藤村 高浜虚子ほか 小浜逸郎 魯迅／竹内好訳 ガルシア・マルケス／ 旦敬介訳
		七 小説③	山崎正和 前田英樹 森鷗外 加藤周一
		八 評論④	
		目次	
		小町谷照彦	
		16年度	
		003 現文	

高等学校現代文 (三省堂)	目次 1部			
一 随想 二 小説(一)	三 評論② 四 詩歌「詩を書く」 五 随想 六 評論③ 七 小説② 八 評論④ 九 小説③ 十 評論⑤ 実用的な文章を読む	鳥の木 相手依存の自己規定 案内者 沈黙のありか 夕焼空よ 群衆の中を求めて歩く 永訣の朝 和歌と俳句―正岡子規 牡丹花は―短歌抄 万緑の―俳句抄 クレールという女 父から娘へ―露伴が伝えたこと 総身に針 文字からコンピュータへ 日本人の美意識 濠端の住まい ここは地の涯で、ここは踊れ 「である」と「すること」 文学のふるさと こころ 脳の世紀―人間探究のゆくえ 心と時間 ①料理の手引き 半熟玉子 ②旅行案内 バリはこうなっている ③統計を読む 江戸時代人の寿命 ④法律の条文について 法と言葉	松浦寿輝 鈴木孝夫 寺田寅彦 牟礼慶子 川崎洋 萩原朔太郎 宮澤賢治 斎藤茂吉 木下利玄ほか 中村草田男ほか 須賀敦子 斎藤孝 古井由吉 西垣通 高階秀爾 志賀直哉 日野啓三 丸山真男 坂口安吾 夏目漱石 立花隆 木村敏 辻嘉一 鬼頭宏 波多野完治	柴田武・ 金谷治 ほか 16年度 現文 004
		「市民」のイメージ カフェの開店準備 山月記	日野啓三 小池昌代 中島敦	

三 評論(二)	ひよこの眼 ミロのヴィーナス 身体像の近代化 ●子どもの権利条約 ——条約・法律の文章 今日 パンの話 ねずみ 現代の短歌——短歌十二首 ホシモノのおカネの作り方 意味と日本語 こころ 不揃いなサンダル	山田詠美 清岡卓行 野村雅一
四 詩歌	●中身当てクイズ——解説文 世代間倫理としての環境倫理学 「である」と「する」と	加藤尚武 丸山真男
七 評論(三)	聴くということ 判断停止の快感 檸檬 藤野先生 南の貧困／北の貧困 ある(共生)の経験から ●情報の読み方・扱い方 のちのおもひに 死んだ男 小諸なる古城のほとり 現代の俳句——俳句十二句 場所と経験 虚ろなまなざし 舞姫	鷺田清一 大西赤人 梶井基次郎 魯迅／竹内好訳 見田宗介 石原吉郎
2部		
一 評論(一)		
二 小説(一)		
三 評論(一)		
四 詩歌		
五 評論(二)		
六 小説(二)		
五 評論(三)		
六 小説(二)		

新編現代文 (三省堂)			
目次 1部	7 評論(四)	三 尺 角	柴田武・ 金谷治・ ほか
	付録	● 脚本の世界―創作 無常ということ 現代日本の開化 日本近・現代文学史年表 学校系統図 生活調度	
1 随想	● 子どもの権利条約 ― 条約・法律の文章 恐怖とは何か たての木よこの木 海への距離 未確認飛行物体 帰途 愛を言う君―短歌十二首 ■ 酸性雨 こころ 蘭	高樹のぶ子 阪田寛夫 中島敦 吉本ばなな	16 年 度
2 小説	ピカソの力強い「線」 「ぞうさん」とまどさん 山月記 みどりのゆび	岸田秀 幸田文 新川和江 入沢康夫 田村隆一 俵万智ほか 石弘之 夏目漱石 竹西寛子	
2部	● 中身当てクイズ―解説文 夢見る力 生活の管理をめぐって	小栗康平 柏木博	現 文 0 0 5
1 随想	忘れられない場面 空と結ばれた自分 レキシントンの幽霊	津島佑子 池澤夏樹 村上春樹	
2 小説			

	現代文 (教育出版)
<p>3 評論</p> <p>4 詩歌</p> <p>5 小説</p> <p>6 評論</p> <p>付録</p>	<p>目次</p> <p>1 随筆(一) —考えること・学ぶこと—</p> <p>2 小説(一)</p> <p>3 評論(一) —現代を生きる—</p> <p>4 詩</p>
<p>蠅</p> <p>聴くということ</p> <p>アイヌ語を訪ねて</p> <p>サウルとフレル</p> <p>●情報の読み方・扱い方</p> <p>ギリシヤ的叙情詩</p> <p>湖水</p> <p>遣伝</p> <p>流水や—俳句十二句</p> <p>■ボランディアの新しい流れ</p> <p>高瀬舟</p> <p>なめとこ山の熊</p> <p>●脚本の世界—創作</p> <p>病と科学</p> <p>未来世代への責任</p> <p>日本近・現代文学史年表</p> <p>学校系統図</p> <p>生活調度</p>	<p>考えることのおもしろさ</p> <p>知識の扉—学ぶことの身体性</p> <p>蠅</p> <p>山月記</p> <p>雀こ</p> <p>共生への冒険</p> <p>なぜ過去を知るのか</p> <p>鶏</p> <p>歌</p>
<p>横光利一</p> <p>鷺田清一</p> <p>中川裕</p> <p>長嶋善郎</p> <p>西脇順三郎</p> <p>金子光晴</p> <p>萩原朔太郎</p> <p>山口誓子ほか</p> <p>田中尚輝</p> <p>森鷗外</p> <p>宮沢賢治</p> <p>柳澤桂子</p> <p>岩井克人</p>	<p>西研</p> <p>港千尋</p> <p>横光利一</p> <p>中島敦</p> <p>太宰治</p> <p>井上達夫</p> <p>溪内謙</p> <p>萩原朔太郎</p> <p>中野重治</p>
<p>井口時男・ 長沼行太郎 ほか</p>	
<p>16 年度</p>	
<p>現文 006</p>	

5	評論(二) — 文明への視点	鎮魂歌 表札 燃える 未来のいのち	木原孝一 石垣りん 吉増剛造 原田正純
6	さまざまな文章(一) — 手紙の可能性	機械と人間 マルジャーナの知恵 夏目漱石の葉書	中岡哲郎 岩井克人
7	随筆(二) — 今とこを聞く	野口シカの手紙 宮沢賢治の手紙 (参考) 永訣の朝 アインシュタインの手紙 「瞬く間」をのぞいてみる	宮沢賢治 小池昌代
8	評論(三) — 文学への招待	さまよえる老婆 小説とは何か	徐京植 三島由紀夫
9	小説(二)	文学のふるさと こころ	坂口安吾 夏目漱石 森鷗外
10	短歌・俳句 — 時代の中の韻律	高瀬舟 ◆ 表現の扉1 デイベートをしよう 現代の俳句 — 二十句	
11	評論(四) — 伝えることの根源へ	現代の短歌 — 二十首 ◆ 表現の扉2 短歌を作ろう 記録すること、表現すること ことばが通じない、ということ 人と「もの」をめぐる精神分析 二〇世紀をつくった日用品	川田順造 竹内敏晴 野田正彰 柏木博
12	表現「もの」を読む	表現活動1 意見文を書く 表現活動2 モノを語る — 「私のモノ語り」	

	現代文1 (大修館書店)
<p>13 小説(三)</p> <p>14 さまざまな文章(二) — 思想の輝き</p> <p>近代文学史年表</p>	<p>目次</p> <p>1 随想</p> <p>2 評論(一)</p> <p>3 小説(一)</p> <p>4 詩</p>
<p>空伍 誰を方舟に残すか 掟の門 外国の思想から</p> <p>わたしは考える、ゆえにわたしは 存在する 人間は考える輩である わたしはだれとも似ていない 大人は子供に帰れない 非暴力には目に見えない力がある 日本の思想から 天は人の上に人を造らず 真理は破壊者である 元始、女性は大陽であつた 美は乱調にあり 言語は万能ではない</p>	<p>雅楽のバイブレーション カフェの開店準備 メディアに軽重はあるか 河童の血筋 ホシモノのおカネの作り方 山月記 白鳥 その夜のコンヤック ひとに手紙を…… みずすまし 樹下の二人 永訣の朝</p>
<p>林京子 武田泰淳 カフカ／池内紀訳 デカルト パスカル ルソー マルクス ガンジー 福沢諭吉 内村鑑三 平塚らいてう 大杉栄 柳田国男</p>	<p>東儀秀樹 小池昌代 杉本卓 中野孝次 岩井克人 中島敦 三島由紀夫 遠藤周作 新川和江 吉野弘 高村光太郎 宮沢賢治</p>
<p>北原保雄 ほか</p>	
<p>16 年度</p>	
<p>現文 007</p>	

精選現代文 (大修館書店)			
4 詩歌	目次 I	5 評論(一) 6 小説(二) 7 ささまざまな文章	落葉 私のモノ学 風景はどのように立ち現れるか ミロのヴィーナス アンジェリーナ 猿が島 天国にひとりでいたら ある青春の日記 世界の文化遺産及び 自然遺産の保護に関する条約(前文) 塩水の舞台? 東京俳句マツプ 記憶について 不易流行 法の精神 敬語への自覚、他者への自覚 自称詞(二人称)としての「ひと」 レトリック感覚 こころ
3 評論(一)	1 随想	8 評論(三)	ベルレーヌ／上田敏訳 村松貞次郎 中村良夫 清岡卓行 小川洋子 太宰治 ゲーテほか 北杜夫
2 小説(一)	2 小説(二)	9 日本語	山下一海 中村雄二郎 森本哲郎 渡辺洋三 橋本治 鈴木孝夫 佐藤信夫 夏目漱石
1 随想	3 小説(三)	10 小説(四)	中村桂子 養老孟司
木ヲ植エル 海の夜明け 山月記 レキシントンの幽霊 大人への条件 恐怖とは何か ひとに手紙を……	短歌 十三首 俳句 十五句 人間の中にあるヒト 個性とは何か	11 短歌・俳句	新井満 高田宏 中島敦 村上春樹 小浜逸郎 岸田秀 新川和江
12 評論(四)	ほか	16 年度	北原保雄
	008	現文	

Ⅱ		
8	暮らしの中の文章	
1	随想	野の記憶 コルベ神父 あらまほしき自然 ラムネ氏のこと 赤い繭 俘虜記 オフ・サイドの感覚 人間の時間について 自己演技と表情 舞姫 冬を越したヘチドリ 無常ということ 「である」と「する」と 心に「海」を持って 漫罵 たけくらべ 武蔵野 日和下駄
5	評論(二)	鈴木孝夫 鈴木修次 夏目漱石 鷺田清一 吉川弘之 加藤秀俊 佐藤雅彦
6	小説(二)	大庭みな子 遠藤周作 村上陽一郎 坂口安吾 安部公房 大岡昇平 加藤典洋 中村雄二郎 野村雅一 森鷗外 W・サローヤン／ 関汀子訳
7	評論(三)	小林秀雄 丸山真男 山崎正和 北村透谷 樋口一葉 国木田独歩 永井荷風
7	近代の文章	吉野弘 高村光太郎 宮沢賢治

新現代文 (大修館書店)		目次	
一生を見つめて	こころのなかに一本の木 止まることを恐れない ナイン TUGUMI—告白— 発車 僕はまるでちがつて 飛込 夕陽 逆さに地図を眺めてらん モノクロームの世界 春愁 鞆 折り紙の夢 文化と理解 アンネの日記	轡田隆史 神津十月 井上ひさし 吉本ばなな 吉原幸子 黒田三郎 村野四郎 鮎川信夫 小松左京 坂根厳夫 三浦哲郎 安部公房 伊部京子 船曳建夫 アンネ・フランク／ 深町眞理子訳 五木寛之	北原保雄 ほか
二 現代の小説(一)	二 自己を見つめて	六 伝統と文化	16 年度
三 現代の詩	七 フアンタジーの世界	八 短歌と俳句	現文
四 新しい視点	九 言葉の力	十 近代の小説	009
五 現代の小説(二)	十一 時代と人間	十二 戦後その精神風景 「移動」の時代	
六 伝統と文化	〈参考〉「星の王子さま」について サンチヨ・パンサに持ち込まれた難題 チエスと言葉 外来語の認識 高瀬舟 たけくらべ 小さな巨人の時代 戦後その精神風景 「移動」の時代	サン・テグジュペリ／ 内藤濯訳 内藤濯 大出晁 丸山圭三郎 森鷗外 樋口一葉 丸山健二 谷川俊太郎 中村光夫	

新編現代文 (大修館書店)			
目次 I	(参考)現代日本の開化	夏目漱石	
1 夢を建てる	夢を建てる人々 宇宙的視野での「やさしさ」 映像をしのぐ言葉の力 オイッ、人間失格！ 初恋の人にあげた本 パラグアイのオムライス	林望 毛利衛 井上ひさし 辻仁成 沢野ひとし 村上龍 内海隆一郎 さくらももこ 町田康 あわやのぶこ 別役実 坂本龍一 山極寿一 井原俊一	
2 広がる読書			
3 人の心に触れる	待合室 ももこのいきもの図鑑 〈人生相談〉どうにかなる人生 空飛ぶ魔法のほうき 正しい風邪のひき方 モンゴルで「共生」を探る ゴリラの思いやり 奥多摩・水道水源林 〈詩〉小諸なる古城のほとり・ 小景異情・祝婚歌 〈小説〉我輩は猫である・雪国・ 風立ちぬ・風の又三郎・山月記		
4 遊び。ユーモア。ゆとり。			
5 環境と共生			
6 名作のひびき			
II			
1 若い人たちへ	どんな人になりたかったか？ 「心の単純化」に陥らないために 情報の力関係 電子メールを送るときのマナー おぼろ月 鉄道員 働くということ ス・ペシャリストになりたまえ 鉄を削る 北海道・東北／関東／中部／近畿	大江健三郎 大石静 佐藤雅彦 中内富雄 藤沢周平 浅田次郎 黒井千次 盛田昭夫 小関智弘	
2 暮らしの中の文章			
3 物語の世界へ			
4 社会に生きる			
5 郷土と短歌・俳句			
		北原保雄 ほか	16 年度
		010	現文

新編現代文 (明治書院)			
目次 前編 ①随想(1) ②小説(1) ③評論(1) ④詩歌 ⑤様々な文章 ⑥随想(2) ⑦小説(2) ⑧評論(2)	6 現代を考える	中国・四国／九州・沖縄 「悲しみ」の復権 生命倫理が変わる カラダにいま何が起きているのか ひかりのどけき春の日にー日本人と桜 月の霜 月の雪ー季節と古典 殺し文句は永遠にー恋する伊勢物語 鈴の音が聞こえるー猫と源氏物語	柳田邦男 森岡正博 齋藤孝 森本哲郎 倉嶋厚 俵万智 田中貴子
	7 今に生きる古典	君にあてた手紙 十六歳のとき バス停 山月記 コンドルの誤り 失敗に学ぶ 閑雅な食欲 永訣の朝 雪 春の鳥(短歌十首) たんぼぼ(俳句十句) 木を長く生かす 大和路 揚げ物のコッ 水仙の花 何に向かつて読むのか こころ 内部と外部	長田弘 星野道夫 内海隆一郎 中島敦 長谷川真理子 畑村洋太郎 萩原朔太郎 宮沢賢治 三好達治 長塚節・木下利玄・ 北原白秋・釈迺空・ 土屋文明 正岡子規・河東碧梧桐・ 萩原井泉水・村上鬼城・ 飯田蛇笏 西岡常一 堀辰雄 辻嘉一 舟越保武 吉本隆明 夏目漱石 芦原義信
		ほか	中島国彦
		16年度	
		011	現文

後編 ① 随想(1) ② 小説(1) ③ 評論(1) ④ 詩歌	知識の扉 理由なき喜び タベに マスク 清貧譚 地球の知性 「間」の感覚 しろい春 かくれんぼ 弟に速達で さくら花(短歌十首) 夏は来ぬ(俳句十句) 森の平和 課題としての遊び 高瀬舟 現在の現在 「世間」とは何か	港千尋 谷川俊太郎 竹西寛子 干刈あがた 太宰治 龍村仁 高階秀爾 吉原幸子 嶋岡晨 辻征夫 宮柊二・寺山修司・ 中城ふみ子・ 馬場あき子・俵万智 杉田久女・加藤楸邨・ 石田波郷・ 中村汀女・鷹羽狩行 高田宏 黒井千次 森鷗外 太田省吾 阿部謹也	中島国彦 16年度 現文 012
精選現代文1 (明治書院)	目次 1 随想(1) 2 小説(1) 3 評論(1) 4 詩	谷にある心 読書家・読書人になれない者の読書論 山月記 城の崎にて 水のない泳ぎ 思想と向き合う 竹 永訣の朝	

現代文 (右文書院)	
目次	
2 小説(1) 1 自己との出会い	5 様々な文章 6 評論(2) 7 小説(2) 8 歌と俳句 9 評論(3) 10 随想(2) 11 小説(3) 12 評論(4)
表札「言語活動教材」 問いの発生 ひのき ナイン 山月記	木・誘惑者 展望台にて 無駄の勧め 美ヶ原 ベースボール 山の便り 世界史の臨界 ものごと 地図の想像力 鞆 春の鳥(短歌十五首) こころ 赤い椿(俳句十五句) 科学と世界観 考える身体 崩れ 「音」と「音楽」 童謡 兵隊宿 「である」と「すること」 生きるということ
石垣りん 野矢茂樹 幸田文 井上ひさし 中島敦	谷川俊太郎 井坂洋子 佐藤忠良・舟越保武 深田久弥 正岡子規 梶井基次郎 西谷修 木村敏 若林幹夫 安部公房 夏目漱石 北原白秋・釈迺空・ 木下利玄・塚本邦雄・ 河野裕子 河東碧梧桐・川端茅舎・ 石田波郷・細見綾子・ 森澄雄 村上陽一郎 三浦雅士 幸田文 武満徹 吉行淳之介 竹西寛子 丸山真男 河合雅雄
会田貞夫 ほか	16年度 013 現文

精選現代文 (筑摩書房)	目次 I 部	<p>3 評論・論説(1)</p> <p>4 短歌・俳句</p> <p>5 小説(2)</p> <p>6 評論・論説(2)</p> <p>7 随筆・随想</p> <p>8 小説(3)</p> <p>9 評論・論説(3)</p> <p>10 近代の文章</p> <p>11 自然と環境</p> <p>12 実用的な文章</p>	<p>考える身体 遊び くれなゐの</p> <p>春寒し</p> <p>ころも</p> <p>「はい」と「いいえ」のあいだ 「である」と「する」こと 紫句ふ 陰翳礼讃 沈黙 面とペルソナ 無常といふ事 舞姫 塵中日記 武蔵野 自然のありか 科学が物語る すらすら読める文・文章 仕事文の書き方</p>	<p>三浦雅士 山口昌男 正岡子規・伊藤左千夫・ 島木赤彦・長塚節・ 木下利玄・土屋文明・ 佐佐木幸綱 河東碧梧桐・村上鬼城・ 飯田蛇笏・川端茅舎・ 松本たかし・石田波郷・ 種田山頭火 夏目漱石 川田順造 丸山眞男 志村ふくみ 谷崎潤一郎 遠藤周作 和辻哲郎 小林秀雄 森鷗外 樋口一葉 国木田独步 岩田慶治 中村桂子 木下是雄 高橋昭男</p>	安藤宏 ほか	16 年度	014 現文
随想 小説一 評論一	微笑について ある少女の眼 山月記 記録すること、表現すること 手をみつめる	長田弘 加藤周一 中島敦 川田順造 市川浩					

II 部			
詩歌	詩歌	歌	中野重治
小説二	小説二	贅のうへ	三好達治
評論二	評論二	永訣の朝	宮沢賢治
小説三	小説三	短歌	釈道空ほか
評論三	評論三	死にたまふ母	斎藤茂吉
実用の文章	実用の文章	みどりのゆび	吉本ばなな
		胡桃割り ある少年に	永井龍男
		イースター島になぜ森がないのか	鷺谷いづみ
		「である」と「すること」	丸山真男
		陰翳礼讃	夏目漱石
		記号論と生のリアリティ	谷崎潤一郎
		手紙	立川健二
		広告	
		報告	
評論一	評論一	文学のふるさと	坂口安吾
小説一	小説一	ウィルスというメタファー	池田清彦
随想	随想	押し絵と旅する男	江戸川乱歩
詩歌	詩歌	むかし女がいた	大庭みな子
		余は、疾風のごとく 自転車	池内紀
		麦	石原吉郎
		眼	西脇順三郎
		名まへ	吉原幸子
		俳句	村上鬼城ほか
小説二	小説二	山の郵便配達	彭見明／大木康訳
評論二	評論二	無常ということ	小林秀雄
小説三	小説三	祖様でございますぞ	石牟礼道子
評論三	評論三	舞姫	森鷗外
付録	付録	Not I, not I...	中沢新一
		近現代文学史年表	
		常用漢字表／付表	

新現代文 (筑摩書房)	目次		
随想一	人を見る、私を見る 知識の扉	光野桃 港千尋	大川公一
小説一	山月記 デューク	中島敦 江國香織	
評論一	時の鎖 好奇心 知的情熱としての 寂しき春	西江雅之 中村雄二郎	
詩	ごびらつふの独白 無題	室生犀星 草野心平	
小説二	永訣の朝 檸檬	吉原幸子 宮沢賢治	
評論二	ナイン なぜ日本語で書くのか 人生の物語性について ラムネ氏のこと	梶井基次郎 井上ひさし リービ英雄	
随想二	ささやかな時計の死 杉柴の道	小浜逸郎 坂口安吾	
小説三	こころ 夏目漱石という作家	村上春樹 幸田文 夏目漱石	
実用の文章	手紙 広告 報告		
随想三	骨とまぼろし 赤い表紙の小さな本	真木悠介 須賀敦子	
評論三	技術の正体 オスの戦略 メスの戦略 戦場の記憶	木田元 長谷川眞理子 富山一郎	
短歌・俳句	短歌 俳句	与謝野晶子ほか 正岡子規ほか	
近代の文章	たけくらべ	樋口一葉	
			16年度
			015 現文

高等学校現代文 (旺文社)			
目次			
評論四	評論四	金色夜叉 駆け落ち	尾崎紅葉 ライナー・マリア・リルケ／ 森鷗外訳
小説四	小説四	広告の形而上学 日本文化の雑種性 倉庫のコンサート 汗の贈り物	岩井克人 加藤周一 池澤夏樹 レベッカ・ブラウン／ 柴田元幸訳
エッセイ(一)	エッセイ(一)	病と文学	
評論(一)	評論(一)	1 高校デビュー 2 緑という色 3 壁つち	辻仁成 志村ふくみ 幸田文 橋本治 吉永良正 小島美子 加藤幸子 中島敦
小説(一)	小説(一)	1 「わからない」という恥 2 わからないことの大切さ 3 音楽からみた日本人 1 雀の意外 2 山月記	いとうせいこう 宮本常一 柴田元幸 藤原新也 立花隆 池澤夏樹 黒井千次 三浦哲郎 夏目漱石
応用学習 言語活動①	エッセイ(二)	簡単なシナリオを作ってみよう 1 金魚 反対に生きるもの 2 空からの民俗学―京の町並 3 シュレツダーの快楽 幸福の海豚 1 エロジ―的思考のすすめ 2 樹木論 1 小さな石碑 2 たき火 3 こころ	
詩	応用学習 言語活動②	1 さくら散る 本の帯を作ってみよう (魅力的な惹句の創作)	草野心平
		ほか	山田有策
		16 年度	
		016	現文

	高等学校現代文 (第一学習社)
<p>応用学習 言語活動③ エッセイ(三)</p> <p>評論(三)</p> <p>小説(三)</p> <p>聞き書き 応用学習 言語活動④ 近代の文章</p> <p>付録</p>	<p>目次 第I章</p> <p>評論(一)</p> <p>小説(一)</p> <p>詩</p> <p>評論(二)</p>
<p>2 やさしい魚</p> <p>3 のちのおもひに</p> <p>4 郷愁</p> <p>5 山のあなた</p> <p>6 落葉</p> <p>7 永訣の朝</p> <p>詩の内容を視覚的に表してみよう</p> <p>1 木挽きのひとり言</p> <p>2 果実の文学誌</p> <p>3 ドンド焼き</p> <p>1 業平の「美男」に就いて考える</p> <p>2 水の記憶</p> <p>1 みどりのゆび</p> <p>2 岸辺の駅</p> <p>3 城の崎にて</p> <p>あると重宝だよ</p> <p>「聞き書き」という表現</p> <p>「安愚楽鍋」から「武蔵野」まで</p> <p>常用漢字一覧</p>	<p>考える楽しみ</p> <p>手の変幻</p> <p>山月記</p> <p>わたしが一番きれいだったとき</p> <p>ちがう人間ですよ</p> <p>永訣の朝</p> <p>知る―和語の文化誌</p> <p>道具と文化</p>
<p>川崎洋</p> <p>立原道造</p> <p>三好達治</p> <p>カール・フッセ／</p> <p>上田敏訳</p> <p>ヴェルレーヌ／</p> <p>上田敏訳</p> <p>宮沢賢治</p> <p>水上勉</p> <p>塚谷裕一</p> <p>内山節</p> <p>林望</p> <p>柳澤桂子</p> <p>吉本ばなな</p> <p>鷺沢萌</p> <p>志賀直哉</p> <p>斎藤隆介</p> <p>山田有策</p>	<p>西研</p> <p>清岡卓行</p> <p>中島敦</p> <p>茨木のり子</p> <p>長谷川龍生</p> <p>宮沢賢治</p> <p>古橋信孝</p> <p>河合雅雄</p>
	<p>竹盛天雄</p> <p>ほか</p>
16年度	
現文	017

小説(二)	小説(一)	評論(一)	第Ⅱ章	文章の広場	評論(四)	小説(三)	創作の楽しみ	評論(三)	小説(二)	詩	評論(三)	小説(二)	評論(四)	小説(三)	評論(五)	探究と表現
鳩を飛ばす日	誘惑する情報	誘惑する情報	誘惑する情報	誘惑する情報	妖怪と現代文化	妖怪と現代文化	妖怪と現代文化	個性神話のパラドックス	夏の花	自然の背後に隠れて居る	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	テクノロジーとのつきあい方	癒しとしての死の哲学	報告文(レポート)の書き方
夏の花	ホンモノのおカネの作り方	ホンモノのおカネの作り方	ホンモノのおカネの作り方	ホンモノのおカネの作り方	想像としての現実	想像としての現実	想像としての現実	短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
個性神話のパラドックス	ウサギ	ウサギ	ウサギ	ウサギ	実用文章	実用文章	実用文章	短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
短歌と俳句	この村が日本で一番	この村が日本で一番	この村が日本で一番	この村が日本で一番				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
妖怪と現代文化	「共生」とは何か	「共生」とは何か	「共生」とは何か	「共生」とは何か				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
想像としての現実	足と心	足と心	足と心	足と心				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
実用文章	冬の日	冬の日	冬の日	冬の日				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	自然の背後に隠れて居る	自然の背後に隠れて居る	自然の背後に隠れて居る	自然の背後に隠れて居る				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	身体の個別性	身体の個別性	身体の個別性	身体の個別性				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	目に見える制度と見えない制度	目に見える制度と見えない制度	目に見える制度と見えない制度	目に見える制度と見えない制度				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	舞姫	舞姫	舞姫	舞姫				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	天の自然詠・地の風景詠	天の自然詠・地の風景詠	天の自然詠・地の風景詠	天の自然詠・地の風景詠				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	季節について	季節について	季節について	季節について				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	七番目の男	七番目の男	七番目の男	七番目の男				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	テクノロジーとのつきあい方	テクノロジーとのつきあい方	テクノロジーとのつきあい方	テクノロジーとのつきあい方				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	癒しとしての死の哲学	癒しとしての死の哲学	癒しとしての死の哲学	癒しとしての死の哲学				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	情報を探し方	情報を探し方	情報を探し方	情報を探し方				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	報告文(レポート)の書き方	報告文(レポート)の書き方	報告文(レポート)の書き方	報告文(レポート)の書き方				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	研究発表のしかた	研究発表のしかた	研究発表のしかた	研究発表のしかた				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	意見文の書き方	意見文の書き方	意見文の書き方	意見文の書き方				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方
	要約のしかた	要約のしかた	要約のしかた	要約のしかた				短歌と俳句	衣服という社会	身体の個別性	目に見える制度と見えない制度	舞姫	天の自然詠・地の風景詠	季節について	七番目の男	報告文(レポート)の書き方

高等学校 標準現代文 (第一学習社)	目次 第I章	新しい人へ 小説を読む(一) 詩を味わう 言葉と生活 小説を読む(二) 創作の楽しみ 自己を考える 小説を読む(三) 文章の広場 第II章 未来を見つめる 小説を読む(一) 詩を味わう 生への思索 小説を読む(二) 短歌と俳句	「木の自由」を考えながら きみに宛てた手紙 相棒 ナイン そこにひとつの席が この世 永訣の朝 情けは人の…… ライフスタイルと浮遊感覚 ミラクル 短歌と俳句 孤独を友とせよ 「私」という存在 鼻 こころ 実用の文章 ワスレナグサ 木ヲ植エル みどりの指 ひよこの眼 食事 こころ 日本海 夢見るダイバー人形 経験の教えについて 山月記 おおるり 折々のうた	内山節 長田弘 内海隆一郎 井上ひさし 黒田三郎 中江俊夫 宮沢賢治 俵万智 渡辺潤 辻仁成 新野哲也 竹田青嗣 芥川龍之介 夏目漱石 星野道夫 新井満 吉本ばなな 山田詠美 高階杞一 萩原朔太郎 草野心平 高樹のぶ子 森本哲郎 中島敦 三浦哲郎 大岡信	竹盛天雄 ほか	16年度 現文 018
--------------------------	--------	--	--	--	------------	-------------------

高等学校 新編現代文 (第一学習社)			
情報と人間 小説を読む(三) 探究と表現	目次	「なあーんだ」の心理 メディアに軽重はあるか 夏の花 情報の探し方 報告文の書き方 研究発表のしかた 意見文の書き方 要約のしかた	柳田邦男 杉本卓 原民喜
自己を見つめる 小説を読む(一) 身近な発見 詩を味わう 小説を読む(二) 言葉と思索 小説を読む(三) 文章の広場 人生の風景 小説を読む(四) 人間と文化	青春の手帳 自分を知ることがいちばんおもしろい 雨傘 他人の夏 愛用品の五原則 わざわざ書く 汚れつちまつた悲しみに…… 夏の本 生命は サイン 犬も歩けば棒に当たる 我らが内なる「虫」 形 文鳥 実用の文章 出島のチューリップ そこが空っぽになる みどりの指 ひよこの眼 花女房 人はなぜ道に迷うか	赤川次郎 鷺田小彌太 川端康成 山川方夫 武田邦彦 宮沢章夫 中原中也 石垣りん 吉野弘 井上ひさし 阿刀田高 養老孟司 菊池寛 夏目漱石 吉田直哉 坪内稔典 吉本ばなな 山田詠美 河合隼雄 山口裕一	竹盛天雄 ほか
	16 年度		
	01 9 現文		

	探求現代文 (桐原書店)
<p>創作の楽しみ 小説を読む(五) 現代と世界 小説を読む(六) 探究と表現</p> <p>付録</p>	<p>目次 I 部</p> <p>① 随想 ② 小説 I ③ 評論 I ④ 詩 ⑤ 小説 II ⑥ 評論 II ⑦ 短歌と俳句</p>
<p>短歌と俳句 倉庫のコンサート ステレオタイプの危険性 人間は進化しているのか 山月記 情報を探し方 報告文(レポート)の書き方 研究発表のしかた 意見文の書き方 要約のしかた 近現代文学史年表 慣用句・ことわざ一覧 四字熟語一覧 原稿用紙の使い方</p>	<p>「わからない」という方法 海亀通信 山月記 イスラム感覚 揺らぎゆく自由の先に 日々の生活に風穴を開ける 天景・猫・死なない蛸 骨 ふと 天国の話 靴の話 級友 科学者とは何か コペルニクスと神秘思想 短歌十二首 俳句十二句</p>
<p>池澤夏樹 青木保 佐倉統 中島敦</p>	<p>橋本治 宮内勝典 中島敦 藤原新也 内山節 谷川俊太郎 萩原朔太郎 中原中也 吉原幸子 鮎川信夫 大岡昇平 津島佑子 村上陽一郎 小山慶太 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか</p>
<p>亀井秀雄 ほか</p>	
<p>16 年度</p>	
<p>現文 020</p>	

展開現代文 (桐原書店)			
目次	I 部	II 部	
		⑧ 評論 III	⑨ 小説 III
① 随想 I	問いについて 始める	言葉の〈意味〉と〈表徴〉 ワット・マタットの破壊された仏像 ここに	中村雄二郎 宇佐美圭司 夏目漱石
② 小説 I	山月記	アリユートのカヤック アイデンティティとは 遺伝子解説の不安 市民社会化する家族 濃紺	龍村仁 河合隼雄 岩井克人 今村仁司 幸田文
③ 評論 I	遊び ボランティアの「報酬」 日々の生活に風穴を開ける ヤマカガシの腹の中から仲間に 告げるグリゲの言葉・春殖・冬眠 ふゆのさくら 鮎に鰯 にじ	おくま嘘歌 詩人のふるさと 南蛮のあなたに 檸檬 ゴーストと音楽の教え ファンタジー・ワールドの誕生 舞姫 日本文化私観 飛行船	深沢七郎 富岡多恵子 若山滋 梶井基次郎 四方田犬彦 今福龍太 森鷗外 坂口安吾 別役実
④ 詩	日々の生活に風穴を開ける ヤマカガシの腹の中から仲間に 告げるグリゲの言葉・春殖・冬眠 ふゆのさくら 鮎に鰯 にじ	濃紺	
⑤ 随想 II	へからだの情景		
ほか			
16 年度			
021 現文			

⑥小説Ⅱ	沙魚 アンパイア めちろ ネオフィリア	⑥小説Ⅱ
⑦評論Ⅱ	安全性の科学 短歌十二首 俳句十二句 こころ	⑦評論Ⅱ
⑧短歌と俳句	自分と出会う 動機 じいさんばあさん 秋桜 希望としてのクレオール 読むことの身体性 片恋 雪くる前 太陽 夜明け前のさよなら 蜩の歌 シンガポールのゴムまり 越えてきた者の記録 山の郵便配達 待つ	⑧短歌と俳句
⑨小説Ⅲ	風景の成長と代償風景の創造 雑種の精神 寺山修司十首 虹の俳句七句 ひよこの眼	⑨小説Ⅲ
⑩詩	ドリアン・T・助川 山際淳司 三浦哲郎 ライアル・ワトソン／ 内田美恵訳 大崎茂芳 与謝野晶子ほか 正岡子規ほか 夏目漱石 吉田喜重 茨木のり子 森鷗外 木崎さと子 柴田翔 港千尋 北原白秋 室生犀星 西脇順三郎 中野重治 金子光晴 大江健三郎 リービ英雄 彭見明／大木康訳 太宰治 樋口忠彦 今村仁司 寺山修司 水原秋桜子ほか 山田詠美	⑩詩